

川崎有料老人ホーム事件からみる介護労働実態

営利企業は環境悪く

川崎市の介護付き有料老人ホーム「Sアミーユ川崎幸町」で入所者3人が相次ぎ転落死し、元職員が25日、女性を投げ落としたとして、殺人容疑で再逮捕されました。同ホームを経営するのは、株式会社メッセシーシ（岡山市）です。介護現場は規制緩和で、企業経営の施設が増。そこでの労働実態のゆがみをみてみました。

（岩井亜紀）

人手不足

介護サービス情報公表システムによると、神奈川県内にあるメッセシーシ社の有料老人ホーム21施設の従業員数は606人（15年）です。14年度の採用者数は207人で退職者数は170人。実に3分の1ほどの職員が入れ替わっています。

元職員は月5回程度の夜勤をし、ストレスを感じていたといいます。

入所者によると、職員はいつも、忙しそうに飛

報酬引き上げ・処遇の改善いる

び回っていたといいますが、月約26万円の入居費が大きな負担となっていたことなどから退所しました。

契約書には、入浴時の見守りがサービス内容に含まれていましたが、実際に職員が見守りにしていたことはありませんでした。

過重労働の上、人手不足の介護現場。民間企業の介護職員（正規）の離職率20・1%は、社会福祉協議会の11・0%、社会福祉法人12・6%より高い傾向にあります（介護労働実態調査・14年度）。同社の県内施設では、さらに高い数字です。

高い離職率の背景の一つに、民間企業の給与の低さがあります。



時間外手当など諸手当を除いた平均月給は、社会福祉協議会が21万979円、社会福祉法人が22万3179円であるのに対し、民間企業は20万832円と低い。

ルールを

営利企業の介護労働環境がとくに悪いことについて、荻原さんは「営利企業は目標利益率の達成をめざし人件費を抑えるもの」と指摘。そのうえで、こう強調します。

「介護現場は人材不足に陥り、介護職に求められる専門性が備わっていない人が入ってきています。しかし、介護など社会福祉の仕事には、一定の資質と能力も必要。介護サービスの質の確保には、賃金と労働条件の改善が必須で、そのためにも介護報酬の引き上げや処遇改善確保のルールが求められます」



相次いだ転落死事件が相次いだ有料老人ホーム「Sアミーユ川崎幸町」＝川崎市